

**消防団員募集中**★十八歳以上の男女で心身ともに健康な方で荏原消防団管轄区域内に居住又は勤務されている方。お問い合わせ先：荏原消防団本部TEL090-4704-4544 (AM8:30~PM5:15)

## 集合教養訓練

平成二十六年十一月十五日(土)、第二消防方面訓練場(大田区京浜島)にて、穏やかな晴天のもと百五十名程の団員が参加し規律訓練、放水訓練を実施しました。

訓練に先立ち昨年十月に発生した都内の火災で消防隊員・団員が、落下した外壁で負傷した事例の集合教養を受け、消防活動上の安全管理と注意事項を再確認しました。

その後、全団員で規律訓練を行い、積載車、可搬ポンプを使った放水訓練を実施。特に新入団員に、ホースの延長や筒先の圧力を実感して貰えるように訓練しました。

新入団員に感想を聞いたところ、「ホースを普通に立って持つて持っているだけだと、倒れそうになった」と興奮気味に話し、「規律訓練の足の運びも早く習得したい」と真剣に話していました。

火災や放火が心配な年末年始に向け初心の緊張感と使命感をあらためて思い起こす充実した訓練になりました。(担当 第二分団)



新入団員を中心とした放水訓練



安全確実な部隊行動は  
厳正な規律にあり！

## 第五分団本部開所

杜松小学校跡地の一角に分団本部が完成。平成二十六年十二月七日(日)、荏原消防署長を始め、歴代分団長、荏原第五地区の全町会会長出席のもと、晴れやかに分団本部開所式が行われました。私たち五分団の担当区域には、首都直下地震が発生した時に、延焼危険度の高い木造住宅密集地域があります。



「自分たちのまちは、自分たちで守る！」との使命感のもと、災害に強いまち作りを地域の方々と共に構築すべく、日々の活動に従事してまいります。(担当 第五分団)

## 消防団員募集

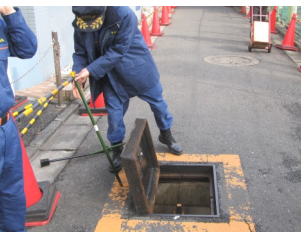
平成二十七年一月十五日(木)午前、旗の台四丁目、オオゼキ旗の台店前にて団員募集活動を行いました。当日はあいにくの雨でしたが、団長を始め、第七分団が参加し、消防職員の方々にも参加して頂きました。私たち消防団は、地域の安全・安心のために一緒に活動する消防団員を募集しています。今後も募集活動を継続していく所存ですので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。(担当 第七分団)



団員募集のリーフレットを配布 (オオゼキ旗の台店)

## 消火栓・防火水槽の点検

平成二十六年十一月三十日(日)、第二分団は、担当区域の消火栓約百五十箇所と防火水槽を一斉点検しました。



いざという時のための点検は、消防団の重要な任務です。(担当 第二分団)

## みんなで守ろう文化財

一月二十六日は、法隆寺金堂壁画が焼失した日(昭和二十四年)に当たり、この日を「文化財防火デー」と定めています。



同日、戸越八幡神社にて、文化財を災害から守るため、第六分団・消防署・文化財関係・災害時支援ボランティア及び町会との合同で消防演習を行いました。(担当 第六分団)

## 編集後記

「一月十七日午前五時四十六分」  
本年、阪神淡路大震災から二十年の節目を迎えた。街が倒壊し炎上している映像は今も脳裏から離れない。  
震災は日常を一瞬にして破壊してしまおう。昨今の火山噴火、豪雨、豪雪等、自然の猛威の前では人間はあまりにも弱く、無力だ。  
あの日から、苦しみ、悲しみを背負って生き抜いてきた方が言う。「大きな希望など持てなかった。だから目の小さな希望を一つひとつ紡いで、みんなで生き抜こうと乗り越えてきた」と。

形あるものは、いつか崩れ去る。しかし、心の奥底に芽生えた「生きよう」と定めた生命力は、いかなる障害も跳ね返す力となり、人を強くする。復興の原動力はここにあると思う。やはり人間は強い。(第五分団 水島洋子)

## 広報委員会

- |      |       |      |    |
|------|-------|------|----|
| 委員長  | 桜井 繁人 | 第四分団 | 安藏 |
| 副委員長 | 福田 廣光 | 第五分団 | 水島 |
| 編集長  | 千葉 信昭 | 第六分団 | 栗木 |
| 第一分団 | 村田 信治 | 第七分団 | 鈴木 |
| 第二分団 | 坪井 文志 | 第一分団 | 清水 |
| 第三分団 | 東風 志明 | 第二分団 | 久雄 |
| 第四分団 | 大友 昇久 | 第三分団 | 久雄 |
| 第五分団 | 近藤 昇久 | 第四分団 | 久雄 |
| 第六分団 | 近藤 昇久 | 第五分団 | 久雄 |
| 第七分団 | 近藤 昇久 | 第六分団 | 久雄 |
| 事務局  | 小出 久雄 | 事務局  | 久雄 |